

部会名	令和 2 年度 第 2 回 障がい児部会		
日 時	令和 2 年 12 月 14 日（火） 14：00～16：00		
場 所	板橋区役所 北館 9 階 大会議室 A		
参加者	出席者 15 名（委員 11 名、事務局 4 名）		
会議の公開（傍聴）	公開（傍聴できる）	傍聴者数	0 名

○ 報告事項

（１）発達障がい者支援センターの開設について

望月部会員より、センターの開設報告を行った。

〈補足〉

- ・令和 2 年 11 月に発達障がい者支援センター「あいぽーと」開設。11 月の時点で相談の申し込みが 90 名。相談対象者の内訳は、10 代～20 代の年齢層が多い傾向。男女それぞれ半分の比率となっている。
- ・開設記念講演を 12 月 15 日から期間限定で申し込みした方に動画配信で実施。現時点で 398 名の申し込みがあった。

〈確認事項等〉

- ・相談の申込者で当事者はどれくらいいたか。

→分析はこれからとなるが、支援者からの問い合わせや申し込みが多かったと認識している。

○協議事項

（１）板橋区障がい福祉計画等の素案について

事務局より障がい福祉計画等の説明を行った。

①望月部会員より、別紙サポートファイル完成に向けた取り組みについて、補足説明を行った。

令和 3 年第 1 回障がい児部会までには、ファイルのひな形を報告したいと思っている。完成前段階で事業者にご意見等、協力を依頼する予定。また、この施策は様々な部署が関わってくるので、庁舎内でも連携し、よりよいものにしていきたいと考えている。

〈主な意見〉

- ・サポートファイルは学齢期が多いと思われるが、発達段階の早い時期から必要だと思う。また、保護者への周知も大事だが、事業所、支援関係機関への周知も重要である。
- 早い時期での活用は保護者がどう捉えるかが重要。母子手帳のように、発達の記録として理解がすすめばいいと考えている。
- アンケート調査の結果、1 歳半健診で発達の遅れに気づくことが非常に多いと聞いている。発達の気づきが早ければ早い方がいいと認識している。関係機関がサポートファイルを使えるようにするために、どうしたらよいか検討を重ね、作り上げていきたい。
- ・サポートファイル作成にあたり、昨年度の放課後等デイサービス等の合同連絡会で、様々な声を聞く機会があったはず。そこで出ていた声を参考にして欲しい。児童発達支援から放課後等デイサービスへ切り替わるタイミングや、就労支援等を行っていくうえで過去の診断を確認する時など、事業所が活用できるようなものをお願いしたい。また、配布前に事業所に使い方の説明を行い、事業所間で認識し、活用を徹底させることが、無駄にならないことに繋がると思う。保育園や幼稚園の先生にも、周知して欲しいと思っている。

・サポートファイルの基本的な内容を確認したい。

→生育歴、医療情報等の記入を行う。基本的に保護者が記入、管理するかたちを想定している。配布方法は、直接配布に限らず、ホームページでダウンロードできるようにするなど、色々な方法を考えている。

②望月部会員より重症心身障がい・医療的ケア児等会議の運営について、補足説明を行った。

本会、連絡会（庁舎内での関係部署）、二つの会議体制があり、今年度は、令和 2 年 9 月 2 日に連絡会を実施、12 月 11 日に第 2 回連絡会を実施した。連絡会の内容を踏まえて、本会を令和 3 年 1 月の後半に計画しているところである。現時点で各部署の課題や実態を聞き取っている。

→重症心身障がい・医療的ケア児の実態把握が難しい。適切な支援に繋げるために、検討を重ねている。障がい児部会で来年度以降、ご協議頂くようなテーマになると思う。

・来年度の重症心身障がい・医療的ケア児の保育園での受入れ体制について、上板橋、あやめ保育園で各 1 名ずつ正式な受け入れを決めており、準備している。現在、受け入れ先の部屋の改修をしている。3 歳児から、募集をかけていることもあり、まだ希望者がいない状況。

・乳幼児期の支援の充実について、発達支援と保育園を併用しているご家庭が増えている。療育の現場では保育園との連携が重要であると考えている。保育園によって療育への関わり方など、色々な違いがある。それぞれでどのように支援していくのか、お互いの理解を深める会があればよいと思う。きょうだい児支援という考えも重要であり、障がい児本人だけでなく、そのきょうだいへの支援を含め、家族全体を見渡して支援体制を構築していく必要があると感じている。

→きょうだい支援への視点は、非常に重要だと感じている。障がい部署と保育部署との連携が必要であると認識している。

・保育園は個別で保育の必要性をみていると思うが、きょうだい全体を通して保育園にみてもらえるような支援が重要である。

→ポイント制であるため、待機児童もいる中で、入園調整が非常に難しい。ただ、きょうだい別の保育園だとしても保育園同士の連携は意識している。今後の課題として、検討が必要だと感じている。

・保護者が発達の遅れの指摘を受け、そのまま発達に問題があると受け取って療育を希望する人がいる。支援者として幼児期にそこまで求めなくてもいいのでは、という感覚をもつこともある。子どもに何を求めるのか、子どもにどうあって欲しいのか、社会全体で子どもへのあり方をよく考えていく必要があると感じている。

・相談を受けた事例で、きょうだいのうち、ひとりには、明らかに知的の遅れがあり療育を受けていたが、もうひとりには、年齢と共にできることができなくなったという相談があり、医師から保護者が気になるなら、という状況で意見書が提出され、療育支援を認めたということがあった。本当に療育の支援が必要なのかが曖昧で、どこまで支援を求めるのかというところを感じた。

・支援の一つとして、障がい児のきょうだいをもつ保護者へ支援を行う集まりがある。家族支援は重要なので、そのような時は、案内して欲しい。色々な立場がある中で、難しい課題。困っているのは本人だと思うので、支援機関で押し付け合うことはしないで欲しい。親の気持ちも整理されていない中で連携して支援するかたちと、親が手をあげて率先して支援を依頼するかたちと、どちらも大事にしていく必要がある。

(2) 地域生活支援拠点等の整備について

事務局より地域生活支援拠点等の説明を行った。

〈主な意見〉

- ・将来親なき後、どのような生活をしていくのか、保護者は気にしている。利用者にとっては非常にいい制度だが、事業所としては、24 時間 365 日相談の支援体制など、実現が難しいという印象を受けた。
- 区によって、民間に委託をしたり、輪番制をとっているところもある。区としてできる範囲の中で拡充していきたい。

○その他

(1) 来年度の障がい児部会の開催について意見交換等

- ・障がい児部会の部会員は、三事業所以外は区の職員。現場の声を反映できるようにメンバー構成を見直して欲しい。
- 来年度、進行方法も踏まえて、見直していきたい。ただし、障がい児部会での議題内容は、関わる部署が多岐にわたるので、関係部署を呼んで周知し、議論していきたいという考えもある。
- ・サポートファイル作成にあたり、書きやすさを重視して欲しい。最低限保護者がこのページを記入すれば良いということが、見てわかる書式にして欲しい。
  - ・サポートファイルは当事者でも書きやすいものという配慮が必要である。バインダーについては、親なき後にも使えるので重要だと思う。